

## 富山市総合計画審議会第3回協働（調整）部会 概要

場所：富山市役所東館8階 801会議室

日時：平成18年5月30日（火）

14：00～15：45

### 1 開会

### 2 企画管理部長あいさつ

老月企画管理部長より あいさつ

本年6月末に審議会へ基本構想（案）を諮問し、同じく8月に答申を受け、9月議会に提案したいと考えている。本日は基本構想（素案）をお示ししたので、忌憚のないご意見をお願いしたい。

### 3 部会長あいさつ

山西部会長より あいさつ

安心・安全・潤い・活力・協働のキーワードにより、富山市がより良いまちになるよう提案できる計画としたい。皆様のご協力をよろしくおねがいしたい。

### 4 議事

（1）策定スケジュール（案）について

（2）富山市総合計画基本構想（素案）について

< 概要 >

（部会長） 事務局より、議事（1）策定スケジュール（案）についての説明をお願いしたい。

（事務局） 策定スケジュール（案）について説明。

（部会長） 事務局より、議事（2）富山市総合計画基本構想（素案）についての説明をお願いしたい。

（事務局） 富山市総合計画基本構想（素案）について説明。

（部会長） では、これまでの説明に対してご意見をお伺いしたい

（委員） 人口の見通しをたてているが、この推計は、国の社会保障・人口問題研究所の推計値か、それとも市独自の推計か。

（事務局） 人口推計は、本計画の策定にあたってコンサルタントに委託して行った。推計に使用した率のうち、出生率については、社会保障・人口問題研究所の中

位推計値を、出生男女比、生存率については、社会保障・人口問題研究所の富山県の推計値を使用している。

純移動率については平成 12 年から平成 16 年までの市の率を使用した。

(委員) 女性の就労と子育てのバランスが重要になってきている。いきいきと働き豊かに暮らすまちづくりの個性や能力を生かした多様な雇用機会の創出のなかで、時代の潮流での記述内容に対応するよう、女性の能力の活用と雇用機会の創出についての表現を考えるべきではないか。

(事務局) 女性の個性と能力の発揮できる環境づくりについては、いきいきと輝く市民が主役の社会の実現の中の男女共同参画の推進の中でも検討しているが、雇用の促進という観点から、個性や能力を生かした多様な雇用機会の創出での表現を検討したい。

(委員) スケジュールについての確認だが、基本構想、基本計画、さらには実施計画を今年度中に策定することとしているが、市民からの意見募集や、議会への説明等を行いながら、同時進行でそれぞれの策定を進めていくのか。

(事務局) 総合計画を合併後速やかに策定したいため、昨年と今年度の2カ年で策定を目指している。スケジュール的には多少きついが、事務局としても精一杯努力していくので、委員の皆様にはご協力をお願いしたい。

(委員) 人と自然にやさしい安全・安心なまちづくりの中の安全・安心な消費生活の推進の中で、「地産地消を推進すべきである。」という強い意見が安全部会であったが、どのように考えているのか。

(事務局) 新しい価値を創造する活力ある産業の振興の中のとやまの魅力と活力を築くものづくり、しくみづくりの中で検討していく。

(委員) 地球にやさしい環境づくりの中の循環型まちづくりの基盤整備の中で、リユース(再利用)の表現が必要でないか。

(事務局) ご指摘の表現を含めることで再度検討したい。

(委員) 土地利用の方向性について記載されているが、基本計画、実施計画等でより具体的に表現されていくのか。市民にとっては、自分が住む地域はどのゾーンにあたるのかが気になるところではないか。

また、新しい「行財政システム」の確立のところ、公共サービスを円滑に行っていく中で、例えば市民との協働・連携などが大きな潮流になっていると思うが、そういったことはここに含まれているのか。

(事務局) まず、総合計画では、土地利用の概念を述べ、具体的な土地利用については今年度策定を進めている都市マスタープランで整理するべきと考えている。

次に、新しい「行財政システム」の確立のところについては、もう一度表現を検討したい。

(委員) 新しい「行財政システム」の確立のところであるが、手段や方法の表現はあるものの、なぜやらなくてはいけないのか、その理由や上位概念について表現するべきではないか。

また、新しい価値を創造する活力ある産業の振興の中の「富山の未来を拓く新しい価値の創造」のところでは、産学官の連携について表現されているが、産業同士(民同士)の連携(新連携)の表現が必要ではないか。

(委員) 誰もが自立し安心して暮らせるまちづくりのところでは、高齢者の住まいに関する施策が含まれているという認識で良いか。

また、共に生き共に支えるふれあいのまちづくりの中の「保健・医療・福祉の連携、充実」のところでは、人材の育成と確保が課題であり、またサービスの質について意識した表現が必要である。

また、「家庭教育の充実」というタイトルは、その説明内容と合致していないように感じる。部会でも社会教育についての意見や、地域で子どもを育てることが重要であるなどの意見があったことから「家庭と地域の教育力の向上」といった表現の方が相応しいのではないか。

(委員) いきいきと輝く市民が主役の社会の実現の中の、「市民主体のまちづくり」の中で、「市民主導型の市政運営」という表現があるが、表現が踏み込み過ぎているのではないか。

(委員) 生活拠点をつなぐ交通体系の充実のところでは、公共交通の利用促進を表現しながら、一方では自動車交通の利便性の確保のため道路の整備を促進すると表現している。今後は公共交通の利用がより重要なテーマであると思うので、表現を工夫できないか。

(委員) 公共交通だけでは生活の利便性が確保できない地域もあることから、表現には留意するべきであるが、重要度は公共交通の方がかなり高い。

(委員) 中心市街地では、駐車場を整備するよりも自家用車の流入を規制するべきとの意見もあるようである。

(委員) 合併により誕生した富山市ならではの問題である。地域の多様性を意識してすべて併記して表現すると、総花的な表現にならざるを得ない。

(委員) 市の中心部の集積と、各地域の拠点の集積により居住地がまとまり、その間を公共交通でつなぐという概念が、多様な地域がある本市のまちづくりのポイントになると思われる。

(委員) 旧町村では、例であるが、社会福祉協議会は合併に伴い一旦解体され、新市として1つに再構築した。それによりそれぞれの地域でのまとまりが弱くなってきている。

旧富山市では合併した旧呉羽町などは合併後も地域でコミュニティバスを走らせるなど地域活動が活発であり、今回合併した旧町村の手本となるのではないか。旧町村がそのような存在になることが新しい総合計画で見えればよいのではないか。

また、個性と一体感という一見矛盾するもののバランスをいかにとるかが重要である。

(事務局) 個性と一体感あるまちづくりのためには、まず、核である中心部がしっかりしていなければならない。中心部がしっかりすることで波及効果を生み、新市全体がバランス良く発展するものと考えている。

(委員) 総合計画は10年間の計画である。生活拠点をつなぐ交通体系の充実のところでは、どこに力点をおいて政策を進めるのか、政策的に市民の価値観を誘導するためにも、声色(トーン)を変えなければいけない。公共交通に力点をおいた表現にするべきではないか。

(委員) 県の総合計画との整合はどうなっているのか。

(事務局) 実務レベル、個別の事務レベルでは行われている。

(委員) 産業の分野では、再雇用制度などを富山市として考えたとき、気がかりな部分もある。

先ほど市町村合併の話があったが、富山市以外の合併した市で感じる時があるが、合併した地域間でコンセンサスがとれていない場合がある。

富山市でも、7市町村で住民同士がコンセンサスをとる環境づくりや概念的なものを基本構想の前段で表現できないか。これについては、5年くらいの期間でもよい。

(委員) 地域別ワークショップを実施したが、ブロックごとに概念を出し合っているのが良い例である。

(事務局) 都市と自然が調和した潤いが実感できるまちのなかで表現を検討したい。

- (委員) 中心部で勤務している人は自分は都市生活者と感じるし、農業などをやっている人は地元意識が強い。同じ家庭内にあっても人が違えば意識が異なる。非常に広域的な市の市民であることを市民に意識付けられるような表現が前段で必要ではないか。そうすることで、一体感をもって読んでもらえるのではないか。
- (委員) 先ほど家庭教育の話があったが、家庭と地域、世代間交流が共に生き共に支えるふれあいのまちづくりとなるものであり、家庭教育の充実 という表現に工夫が必要ではないか。
- (委員) 都市像であるが、部会での意見が出やすいところであるので検討経過を聞かせてほしい。
- (事務局) 合併したことにより、海拔 0m から 3000m 級までの広大な範囲が誕生したこと、都市部と山間部それぞれが持つ個性を生かしながら、市民の活動が活発で、まち全体が躍動している都市をイメージしたものである。都市像はこれでいきたいと考えている。
- (委員) 合併による思いや様々な思いが込められていると思うが、合併により誕生したことを表現するべきではないか。
- (部会長) 基本構想(素案)については、これらの意見を事務局に再度検討をお願いしたい。  
他に意見はないか。なければ、原案を承認するというところでよいか。
- (委員) 異議なし。
- (部会長) 今日の意見を参考に、事務局で再度検討のうえ、次回 6 月 3 0 日の諮問前に資料を配布するようお願いする。本日はありがとうございました。

(以上)

## 5 閉会